

研修資料:『手』という言葉で、心を通わせる

## ～介護現場における「手話言語」の理解と尊重～

### 1. 手話は「ジェスチャー」ではありません

手話は、日本語とは異なる独自の文法を持つ\*\*「独立した言語」\*\*です。

- **文法は「顔」にある:** 眉の上げ下げ、視線、口の動きが、日本語の「て・に・を・は」や「？」の役割を果たします。
- **脳の仕組み:** 手話を使っている時、脳は「運動」ではなく「言語」を司る部分が活発に動いています。

### 2. なぜ、ろう者に「日本語(筆談)」が伝わりにくいのか?

多くのろう者にとって、手話は\*\*「母語」\*\*であり、日本語は後から学んだ「外国語」\*\*に近い存在です。

- **助詞の壁:** 「コーヒーでいい」「コーヒーがいい」といった微妙な助詞の差は、音の蓄積がないと理解が非常に困難です。
- **文化の差:** 日本語は遠回しな表現を好みますが、手話は「結論」や「視覚的なイメージ」を優先します。

### 3. 「筆談」だけでは足りない理由

筆談は、あくまで「情報の伝達(事務連絡)」には有効ですが、\*\*「心の交流」\*\*には限界があります。

- **筆談:** 感情が削ぎ落とされた「無機質な文字」のやり取り。
- **手話:** 喜び、悲しみ、痛み、その人の「人柄(声)」が直接伝わる手段。

筆談で済ませることは、相手に「外国語での会話」という無理な努力を強いている可能性がある」と認識しましょう。

### 4. 今日から現場で実践できること

手話を完璧にマスターする必要はありません。大切なのは\*\*「あなたの言葉を尊重しています」という姿勢\*\*です。

1. **目を見て話す:** 視線を合わせることが、手話の世界では「聞く」ことです。
  2. **表情を豊かに:** 無表情な会話は、声で言えば「棒読み」と同じです。
  3. **挨拶だけでも手話で:** 「おはよう」「ありがとう」を手話でするだけで、利用者の孤独感は劇的に解消されます。
-

**「言葉を認めることは、その人の尊厳を守ることです。」**